



にしきの子

学校教育目標（合言葉）

- 一、しっかり学ぶ 錦の子
- 一、よりよく生かす 錦の子
- 一、なかよく生きる 錦の子
- 一、元気でがんばる 錦の子

今年度の重点目標

4月10日（月），始業式の際，児童に1年間の生活目標として，次のような話をしました。「『進んで元気なあいさつをしましょう。』『人の話はしっかりと聞きましょう。』『自分から進んで行動しましょう。』『自分のことばや行動には責任をもちましょう。』『そうじをていねいにしましょう。』児童の皆さんは，毎朝，元気にあいさつができており，授業中も，先生の話をしっかり聞いています。素晴らしいところはこれからも忘れずに心がけ，さらに，自分の言葉や行動に責任をもちながら，何事にも積極的にチャレンジしてほしいと思います。日常生活を送る上での目標として，“さしすせそ”を合言葉に，今年1年間，学校生活を充実させていきましょう。」

さ きにあいさつ

し っかり話をきく

す すんでこうどう

せ きにんをもつ

そ うじをていねい

授業参観・学級懇談会

4月19日（木），今年度最初の授業参観と学級懇談がありました。新年度がスタートして間もないこともあり，全体的に緊張感が漂っていました。しかし，どのクラスも，児童は元気に一生懸命取り組んでいる様子がみられました。

その後，学級懇談会で，担任から学級経営に関する説明などがありました。保護者の皆様と担任が顔を合わせ，話をする機会を設けることができたことは，本当に良かったと思います。保護者の皆様，お忙しい中，ご協力いただきましてありがとうございました。



PTA総会

4月19日（水）錦小学校体育館で，令和5年度定期総会が行われました。PTA会長，学校長のあいさつ，転入した教職員の紹介の後，滞りなく議事が進行しました。PTA会長をはじめ，役員の皆様，保護者の皆様，お世話になりました。1年間，よろしくお願ひいたします。



◇最新の情報は，本校のホームページでご確認ください◇



いじめゼロ強調月間

5月はいじめゼロ強調月間です。本校では以下の取組を実施し、子供たちが明るく充実した学校生活を送れるように努めてまいります。

1 「いじめゼロ強調月間スローガン」の掲示

- ・いじめゼロ強調月間スローガン
「いじめゼロ しない 負けない 許さない」

を1か月間掲示します。(教室・廊下・昇降口・職員室)

2 いじめゼロリボンシールの着用 (シールを胸章につけます。)

3 いじめにかかわる内容を含んだ道徳の授業の実施

- ・各クラス，期間中に1回以上は実施します。

4 第1回いじめアンケート調査の実施

- ・実施期日：5月1日(月)～5月9日(火) ・実施対象：全校児童
- ・事後指導：アンケートによりいじめの訴えがあった事案については，被害・加害児童，関係児童，保護者等からの聞き取りを行い，客観的な事実関係を把握します。いじめが疑われる事案が確認された場合は，「錦小学校いじめ防止基本方針」に基づき，適切に対処いたします。

5 教職員による休み時間等の巡回 (教室や廊下，特別教室，校庭等を巡回します。)

6 いじめゼロ呼びかけの実施

7 地域・保護者への啓発 (各学年だよりや学校ホームページ等で紹介します。)



避難訓練・引き渡し訓練 (1学年)

5月12日(金)，地震と火災を想定した避難訓練を実施し，日頃から「自分の命は自分で守る」という意識をもって生活するよう話をしました。

また，午後は，1学年を対象に，引き渡し訓練を行いました。保護者の皆様，緊急時の際には，ご協力の程，よろしくお願いいたします。



水槽は溜め、泉は溢れる

イギリスの有名な詩人の言葉です。「水槽にいろいろなものを溜め込んでいるタイプの人間よりも，大きさは水槽より小さいが，こんこんと湧き出る泉のごとく発想が豊かな人間であってほしい」という意味だそうです。また，ある経済学者は，「どれだけたくさんの知識を，どれだけ正確に，どれだけ詳細に暗記して大きな『水槽』に溜め込もうとするのではなく，これからは，自分の足で歩き，自分の目で見て，自分の耳で聞き，実際に体験し，自ら調べ自ら考える『泉型』の人材こそがもっとも必要である」と，ある新聞のコラム欄に書いていました。

Society5.0 (超スマート社会) を生きていく今の子供たちが，今後，予測不可能な社会の変化に柔軟に対応し，主体的に生き抜いていくためには，自ら課題を発見し，自分で考え，自分の言葉で表現し，新しい価値を生み出す感性と創造力，好奇心や探究力が必要となります。また，個人や社会の安全・安心を確保するためには，未然防止や再発防止などの危機管理に必要な強い想像力や思考力が求められます。これらの様々な力を身に付けるためにも，基礎・基本の定着と基礎学力が必要不可欠となります。これからも，毎日の授業はもちろん，自然体験や社会体験などの教育活動一つ一つを大切にしながら，子供たちの自己肯定感を高め，『泉型』の人材を育成していきたいと思ひます。